

令和6年度 八雲町橋梁補修設計業務

【トワルベツ 2 号橋、地藏橋】

特 記 仕 様 書

特 記 仕 様 書

1. 適用の範囲

本仕様書は、八雲町が発注する「令和 6 年度 八雲町橋梁補修設計業務」（以下「本業務」という）に適用する。

また、本業務の遂行に当っては、本特記仕様書によるほか、「北海道建設部測量調査設計業務等共通仕様書」（北海道建設部）（以下「共通仕様書」という）によるものとする。

2. 業務の目的

本業務は、八雲町橋梁長寿命化修繕計画に基づいて補修事業を進めているもので、その計画資料を参考として詳細設計を行い、補修工事の実施に必要な工法の選定、図面、数量等を作成することを目的としている。

また、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止」を図るために、塗装された補修対象部材について、塗膜有害物含有分析を行う。

3. 業務内容

(1) 業務名称

令和 6 年度 八雲町橋梁補修設計業務

(2) 履行期間

令和 6 年 5 月 23 日 ～ 令和 6 年 9 月 9 日

(3) 業務項目および対象橋梁

1) 塗膜有害物含有分析

- ・トフルベツ 2 号橋、地藏橋

2) 橋梁補修設計

- ・トフルベツ 2 号橋（H型鋼（合成） 1径間、橋長 L=14.5m）
- ・地藏橋（鋼溶接橋 H形鋼 1径間、橋長 L=7.5m）

4. 作業内容

(1) 塗膜有害物含有分析

対象橋梁の塗装された鋼構造物について、塗膜に含まれる有害物質の含有状況を把握するために、鉛、クロムの含有量試験を行い、分析試験結果について報告書を作成する。

1) 試料採取位置 各橋梁 1 箇所

2) 試験方法 「「低濃度 PCB 含有廃棄物に関する測定方法(第 4 版)」(令和元年 10 月環境省) 8. 塗膜くず」に準拠するものとする。

3) 試料採取 採取にあたっては、PCB や鉛などが含有している恐れがあるため、有資格者が作業を行い飛散防止処置及び保護具(防塵マスク、保護メガネ等)着用を行うこと。

(2) 橋梁補修設計

1) 損傷箇所の確認調査

橋梁点検結果を基に、梯子等を使用して近接目視で橋梁全体の損傷状況を確認するとともに、必要となる各種試験を実施し、補修設計に必要な損傷状況等を把握する。

2) 支承補修設計

既設鋼製支承の再塗装、又は応力計算を必要としないモルタル補修について、補修設計、図面作成、数量計算、概算工事費算出、照査及び報告書作成を行う。

3) 伸縮装置取り替え設計

応力計算を必要としない構造の既設伸縮装置の取り替えのための設計について、補修設計、図面作成、数量計算、概算工事費算出、照査及び報告書作成を行う。

4) 鋼橋塗装塗り替え設計

防食機能を回復させるための再塗装(塗装仕様・範囲)の設計(支承の同時塗り替えを含む)について、補修設計、図面作成、数量計算、概算工事費算出、照査及び報告書作成を行う。

5) 下部工補修設計

ひび割れや遊離石灰、断面補修等の損傷箇所の補修について、補修設計、図面作成、数量計算、概算工事費算出、照査及び報告書作成を行う。
尚、補修検討に必要な強度計算などは当該補修設計に含まれるものとする。

6) 施工計画

足場・支保工の設置、交通規制などが必要な補修について、施工検討、設計図面・数量計算書・概算工事費算出、照査及び報告書作成を行う。
尚、工事発注に伴う関係機関協議及び関係機関協議資料の作成については当該施工計画に含まれるものとする。

5. 業務計画書

業務の目的、主旨を十分に把握した上で設計図書に示す業務内容を確認し、業務概要、実施方針、業務工程、業務組織計画、打合せ計画、照査計画、成果品の内容・部数、使用する主な図書及び基準、連絡体制（緊急時を含む）等を記載した業務計画書を作成する。

6. 成果品

本業務の成果品は、業務報告書（調書・記録表等）印刷物 2 部、電子媒体 1 部を提出する。
なお、業務担当員が必要とする資料がある場合は、別途、協議する。

7. 設計協議

設計協議回数は、着手時 1 回・中間 1 回・成果品納入時 1 回の合計 3 回とする。
着手時と成果品納入時には、管理技術者が出席するものとする。
当該業務における旅費・交通費は、北海道建設部の委託積算基準に準拠し、旅費交通費の率を用いる積算とし宿泊日数および滞在日数は 2 日とする。
打合せ記録簿については、打合せ後遅滞なく提出すること。（電子メール 可）

8. 業務位置

別紙に位置図を示す。

9. 貸与資料

当該業務の履行に際し、次の資料を貸与する。

- (1) 橋梁等台帳
- (2) 橋梁長寿命化修繕計画（点検成果・修繕計画書）
- (3) その他業務履行上必要な発注者の所有する資料
八雲町建設課（初回打合せ時）

10. その他

本業務に関する事項については機密を厳守し、無断で第三者に漏らしたり利用してはならない。

補修工法の選定にあたっては新技術（NETIS 等）を活用することとし、従来工法との比較を行い、経済性及び施工性等において優位となる工法を選定すること。

受託者は、業務の実施にあたり疑義が生じた場合には、業務担当員と協議を行うものとする。